

令和5年度「知事と市町長の円卓対話」（津市）概要

- 1 対話市町名 津市（津市長 ^{まえば やすゆき} 前葉 泰幸）
- 2 対話日時 令和6年3月1日（金）14時00分～14時30分
- 3 対話場所 アストプラザ 5階 ギャラリー1（津市羽所町700番地）
- 4 視察場所 津駅周辺〔津駅西口、津駅東西連絡歩道橋、津駅東口〕
（津市羽所町）
- 5 対話項目 津駅周辺の道路空間整備について
 - ① 津駅西口駅前広場の整備
 - ② 津駅東口におけるバスタプロジェクト

6 対話概要

対話項目 津駅周辺の道路空間整備について

① 津駅西口駅前広場の整備

（市長）

昭和48年、私たちが小学校5年生の時に、津駅西口の駅前広場が今の形になり、津駅、津チャムができました。

その後50年、形が大きく変わっていない中で、めざす姿が2つあります。

1つは若者の利用についてです。中学生、高校生といった若者たちが思い思いの時間を過ごせる、賑わう駅周辺にしていきたいということです。

もう1つは、市民の皆さんが使いやすいこと、お越しになった方々が都市の心地よいイメージ、もっと言えば、県都の風格を感じさせるようなイメージの駅になり、かつ、帰りに買い物ができるなど便利な駅にしていきたいということです。

令和に入った頃から、築山を外して、より使い勝手のいい広場にしたいということを随分考えてきたんですが、津駅東口の話が出てきた中、西口はどういうふうにしていこうかということ、少し立ち止まって考えた時期がありました。それが令和2年、3年ぐらいです。

令和4年以降、あらためて西口をどういうふうに変えていくかということ、新しいイメージを出そうということ、津市の方で考えてきました。

その結果出てきたものが、西口駅前広場については、鉄道事業者というよりも、バス事業者、タクシー事業者、それから、送迎のための一般車がどういう形で、うまく使い勝手のいいものにしていくか、ということ、考えることが必要だろうという結論に至りまして、昨年9月に津駅西口駅前広場エリアマネジメント会議という新しい会議を作りました。

このエリアマネジメント会議の中で、関係する交通事業者、警察、地元の自治会、ビルのオーナーなど、いわゆる利害関係者に集まっていただいて、この場所

をどういふふうに変えていくか、ということについて、実際に絵を見ながら考えていただくという段階までできました。

そして、令和6年度に国土交通省国土政策局の官民連携基盤整備推進調査費を活用し、エリアマネジメント会議を動かしながら具体的な姿を作っていくこととなります。

今後は、令和7年度に駅前広場の設計業務に入り、令和8年度に工事をしていきたいと思っています。

東口との関係で、この駅前広場がどういふふうになるのか、あるいは東西連絡通路の着地点がどうなるのか、という課題が残りますが、いずれにせよ今の形をより使いやすいもの、お客様にとってタクシーやバスに乗りやすい、送迎の車が停めやすい、それから、非常に多くの子どもたち、高校生までの通学路になっていますので、その混雑が緩和できるように歩道を拡張するなど考えていきたいと思っています。

今、申し上げた国の官民連携基盤整備推進調査費については、今、国にお願いをしておりますが、県からも後押しをお願いしたいということ、また、県から見て、西口の形はもう少しこうあるべき、あるいはこういうことをまず考えていけばどうだというようなご指導もいただきながら、連携・協力をお願いしたいというのが1番目のお話になります。

(知事)

先ほど前葉市長と一緒に、西口と、それから東口も見せていただきました。

まず西口ですが、真ん中に車を停めて、歩いて鉄道駅に来るのに歩道がないということで、安全上の問題もあるなという気がしています。

令和2年度から県で検討会を設置して、令和3年度からは、津市、国、県とで議論が始まったわけですが、令和4年度から津市が中心になってこの駅をどうするかってことを考えていただいたことに対して非常に敬意を表します。

ポイントとしては、まずバスとタクシーという公共交通をどうするかということと、もう1つは送迎、民間といいますか、私的な交通をどうするかということだと思えます。

この送迎っていうのも目的があるわけなので、おそらく議論された中では区分をされてると思いますが、1つは鉄道利用をするために一般車に乗って来られる、あるいは送ってもらう、それとバスまたはタクシーに乗るために車で来られる、もう1つは近隣の塾とか料理学校、幼稚園などに送り迎えをされるということがあります。そこをどういふふうにするかということだと思えます。

先ほど絵を見せてもらいましたが、歩道に近いところを公共交通にして、一般

車による送迎を中心にするということについて、基本大きな問題はないんじゃないかなという気がしております。

ただ、一般車による交通が滞留しないようにどうするかというのは、おそらくこれからのポイントになってくると思いますのでそのあたりを考えていく。もう一つは、東口がメインで担う役割かもしれないですけど、西口の広場を今後、例えば偕楽公園と結んで賑わい創出ができるかとか、それから、西口のバスの行き先との関係で、西口広場の一部を使って賑わい創出ができないかということも一つの課題として考えてもいいのではないかなという気がしております。

こういった点について先ほど市長からご要望、ご要請もいただきましたけど、一緒になって考えていきたい、そして国に対して要望をさせていただきたいということを考えています。

(市長)

ありがとうございます。

今、ご指摘いただいた点、まさに私どものエリアマネジメント会議でも非常に中心的な議論になっているポイントであります。

久居駅の西口で一番駅側がバス、その次が自家用車、駅から一番遠いところがタクシーでしたが、それを再編の時に駅に近い側からバス、タクシー、一般車というふうに入れ替えたことがございます。その際に、やはり一般車のラインにどうしても滞留が生じてしまうというようなこと、極端なケースは車から運転手が離れてしまうケースがあったりとか、久居駅でも課題がありますので、津駅西口を整理するときにはその辺のルールも含めてきちんと捌いていかないといけないと思っています。

それから、さらに広域的な偕楽公園までも視野に入れたところでありますと、NHKが旧三重県立博物館の跡地に新しいビルを造られると思いますので、その辺り一帯の開発を視野に入れた津駅西地区の新しい形に向けての協議を今後もさせていただきたいなと思っています。

対話項目 津駅周辺道路空間整備について

② 津駅東口におけるバスタプロジェクト

(市長)

東口の駅前広場はタクシーとバスの2つに分かれていまして、一定の秩序はあるものの、知事ご自身もおそらくここで降りるときにお感じになっていると思います。送迎車がうまく捌けてない感じはあります。

駅前ロータリーでは、突っ込んでバックするとか、交通の滞留が見られる場所があるので、これをどう捌くかという問題があります。

津駅に向かう道路の車線を一部仕切って、賑わい創出をやっていただいておりますが、最大の課題はバスターミナルです。

国道23号の道路利用者のためのターミナルをどこかで造ってはどうかということで、令和2年度の県の調査というところから始まっています。

今の三重県県土整備部の若尾部長の前任の水野部長が、このターミナルについては国、そして西への道路を県、西口は津市でという、一定の役割分担をおっしゃっていただいた時期があるんですが、その後、他の街路との関係で、東西自由通路は私どもがやって、下部田垂水線を県にやっていただくというお話を県政要望でいただきました。

そうであれば、この東西自由通路を新しい調査の中で、民間活力を使いながらどういう形で進めるかということ、来年度に進めるというタイミングになりましたので、ぜひ東口について、バスターミナルのバスタプロジェクトの構想をベースとして、それが一番の根幹になると思いますが、県において国へのアプローチ、それから、県による道路空間活用について進めていただければというふうに思います。

バスタプロジェクトの状況がバスタを造る必要があるかどうか、造ることの必要性を調査している段階であったというふうに思います。

その次に計画段階、どう造るか、どういうものを造るかということ、そして事業化という、今ここに移る非常に重要なタイミングだと思いますので、ぜひ、国土交通省道路局に対して、私も努力していきますが、この津駅のバスタプロジェクトの必要性や重要性、そして市民、県民の期待を強くお伝え願うとともに、この津駅東口関連の道路空間整備につきまして、大きなお力をいただければというふうに思っております。

四日市バスタが先行していますが、これは前から計画があって進んでいる話ですので、決して四日市を追い越したいと思ってるわけではありません。

ただ、道路局の改築事業で予算がついてくると思いますので、四日市バスタの後、間髪入れずに津駅バスタに進むように、津・松阪港が終わって間髪入れずに四日市港が始まったのと同じような話を、津駅バスタでも実現していただければ、知事のお力をお借りできればというふうに思っています。

(知事)

公共事業をよくご存じの前葉市長からのアドバイスですので、我々もしっかりと考えていきたいと思っております。

東口はさっきも見せていただきましたけれども、西口もある程度皆さんとお話をされて絵を書いておられるように、東口もすでにやっておられる部分を下敷きにしながら、これからまたエッセンスを加えていく部分があるかもしれない

いなという気もしておりました。

それは、公共交通のバスとタクシーをどんなふうにも駅前整備をしていくのかということになります。

かつて福井駅や岐阜駅でも実施しましたが、そこまでの大がかりなものではないかもしれないけれども、せつかく造っていくなればバスがよいのではないかと、仮にバスを造っていくなれば、ターミナル整備をして、バス、タクシーはどこに持って行って、送迎車両も含めてどのようにスムーズに交通をまわしていくかということを考えていくのが重要だと思います。

その時に、駅前の県道でやっている賑わい創出のイベントと、それから津市で引き受けていただいた津駅の東西連絡通路をどうやって一本のラインで繋いでいくのかということ考えた方がいいですね。

さらには、西口ともうまく連携を取るとということも重要でありまして、西口、偕楽公園のお話を先ほどしましたけど、距離がちょっと遠いんですけど県立美術館もあるので、東海農政局の前を歩いて美術館までの間を散策することができるかどうかということも含めて、歩道の整備の仕方はあるとは思いますが、できれば回遊できるような形にすると、夢は広がっていくとは思っています。

東口の方に話を戻しますと、公共交通と一般車をどう分けていくのか、一番利便のいい形で考えていく必要があるし、その下敷きになるのはバスだろうと思います。ここはもう県も市と一緒に、中部地方整備局、そして国交省本省にお願いをしていきたいというふうに思っています。

もう1つ県でやらしていただいている賑わいの創出についても続けていきたいと思っています。また津市の方で、駅前広場も使っていただいて、賑わい創出をやっていただけてますので、連携してやってもいいと思いますし、先ほど申し上げたように西口も一緒にやるということもあるかなと思っています。

昨年12月の賑わい創出は、若い人の評判も非常に良かったということを知っていますので、恒常的にとは言いませんが、一定の期間を設けてやっていくのもありかなと思います。

その時に1つご提案で、これから調整しなければならないですけど、話題性のあるイベントをやるということもありかなと思っています。キッチンカーや若い人が集まってくる屋台のようなものも大事ではありますが、他県や東京の日比谷公園などでやっていますが、例えばクリスマスのオーナメントとか話題性のあるものを、例えば偕楽公園や大里などの他の地域と一緒に、連携しながら実施できるといういなと思っていますので、またご相談をさせていただきたいなと思います。

(市長)

ありがとうございます。

イベント、催し、ここへ来るきっかけなども非常に大切だと思いますので、引き続きご相談をさせていただきたいと思います。

我々の世代にとっては、私どもが知事であり、市長の時に巡り合ってきた地図に残る仕事だと思います。県庁の玄関口でもありますし、県都の顔でもある場所でございますので、しっかりと議論を重ねながら造り上げてまいりたいと思いますので、国からもご支援をいただきながら、県にしっかりと連携をお願いを申し上げます。非常に意気込んでおりますので、よろしくお願ひします。

次回以降も広い津市でありますので、いろいろなエリアで、さまざま知事にご覧いただきたい、ご指導いただきたいところは出てまいりますが、この津駅については、継続的にご相談させていただきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願ひ申し上げます。